熊本大学教育学部附属
教育実践総合センターニュース

No. 38　2014.1.31

ホームページ http://www.educ.kumamoto-u.ac.jp/~jissen/index.htm

ユア・フレンド事業　意見交換会（教育学部）

教育実践総合センター長２年目として・・・・・・・・・・・センター長　中川　保敬 2
お世話になりました・・・・・・・・・・・・・・・・・・センター専任教員 吉田道雄 3
熊大在職の思い出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ センター特任教員　田中耕治 3
2013（平成 25）年度メイクフレンズ活動報告・・メイクフレンズ船長　藤山茉優 4
ユア・フレンド活動で得たもの・・・・・・・・・ユア・フレンド　青木　望美 5
ユア・フレンド活動で得たもの・・・・・・・・・ユア・フレンド　鬼下　優美 6
ユア・フレンド活動で得たもの・・・・・・・・・ユア・フレンド　中村謙二郎 6
センター日誌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

教育実践総合センター長２年目として

センター長　　中川　保敬

2013 年 4 月より、熊本大学教育学部附属教育実践総合センター長として２年目を迎えました中川保敬です。どうぞよろしくお願いいたします。

教育学部においては、教員養成分野のミッションの再定義による改革が進行している中で、教育実践総合センターにおいても機能強化が求められている。このため、従来のセンターの２教育研究部門（３領域）の業務内容をに直しを図るとともに、教育相談業務の一層の充実を図るために特別支援相談室と学生支援室を新たに設置することとしている。教育学部での教員養成教育と現職教員研修等の機会を通じて教員に求められる実践的指導能力等の資質向上へ資する期待が高まってきております。このことに、２年目の任として、教育実践総合センターの果たす役割の重さを実感しております。

本年７月から新しく教育実践総合センターの客員教授として、三原悟客員教授（前熊本市教育委員会事務局教育次長）が就任なされました。三原客員教授が就任されたことにより教育学部学生の教員に向けての資質の向上や附属学校の支援などを通して教育学部の活性や熊本市教育委員会との連携がより深くなることと思います。

また、教育実践総合センターは、教員免許状更新講習実施委員会（教育学部）の責任担当となり、特に必修領域の講習への開講においてはセンターの役割が高まってきたことを感じております。今回、センター長を拝命して、教育実践総合センターに寄せられる様々な希望・要望をしっかりと受け止め、遂行していく所存であります。

さて、教育実践総合センターは、これまで「教育実践」に役立つことに焦点を当て、様々な活動を展開して参りました。これまで、①学部・附属学校研究連携推進委員会、②教育学部・熊本市教育委員会連携推進委員会、③フレンドシップ事業、④ユア・フレンド事業、⑤インターンシップ事業、⑥教員免許状更新講習実施委員会と、⑦教員免許更新講習の担当（5 講座及び追加講座の担当）、⑧教育実習事後指導、⑨『教育実践研究』の発行、⑩教育シンポジウム等を行って参りました。（ 尚、フレンドシップ事業、ユア・フレンド事業、インターンシップ事業）は、熊本市教育委員会との連携事業で、ユア・フレンド事業は三原客員教授に７月から支援をいただくことでさらに充実した事業として熊本市教育委員会と連携していくことが期待されます。

教育学部の平成２７年までの中期目標・中期計画の中で，教育学部の先生方と連携を深め、広げ、附属学校園との共同研究研究として先進的カリキュラムモデルの開発、教育学部生の教育実習支援等も含め、文字どおり教育における総合的実践のセンターとして機能していくことが期待されていると思います。

今後ますます、県・市教育委員会との連携や教育学部、附属学校園との連携を強化し、教育実践総合センターの役割をさらに高めていきたいと思います。皆様方からご意見ご指導を賜れば幸いです。宜しく御願いします。今後とも、教育実践総合センターの業務につきましてご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

お世話になりました

センター専任教員　　吉田　道雄

「とにかく元気だけはありますので、これからしっかり勉強させていただきます」。いまから34年と半年前の1979年（昭和54年）10月、私が教育学部の教授会でこんな挨拶をしました。その年の4月に「教育学部附属教育工学センター」ができて、その専任講師として採用されたのです。まだセンターの建物はなく、教育学部３階に３部屋を間借りしてのスタートでした。この年に、NECのPC8000 シリーズが登場しました。さっそくセンターでフルセットを購入して、プログラム開発にのめり込んだのでした。その能力は、現在のPCを新幹線にたとえれば自転車程度でしたが、価格は 80 万円ほどもしたのです。それから１年半後、教育学部から３km程離れた京町の附属小中学校キャンパスにセンターが竣工しました。そのころにはPCに加えて、目が飛び出るほど高価なビデオとその編集をするための機器も導入されていました。そして附属の先生方とビデオ教材を開発するために夜遅くまでご一緒したことも貴重な思い出になっています。

さらに、1988 年（昭和 63 年）には「教育実践研究指導センター」に改組されます。それに伴って専任が２名になり、中山玄三先生が着任されることになります。中山先生は教育課程に関わる理論的な研究だけでなく、実践力に突出した力を発揮されましたから、センター活動の幅が一気に広がりました。さらに、2001 年（平成 13 年）には、現在の「教育実践総合センター」へと２回目の改組が行われました。ここでさらに高原朗子先生が専任として、われわれの仲間になられたのでした。その結果、臨床心理的な側面からの研究と実践的なサポート体制が整うことになりました。センターは事務補佐員の方々にも恵まれました。現在の正木さんで 10 名になりますが、皆さんのお顔がすぐに頭に浮かんできます。センターが学部から離れたところにあって、連絡等で苦労することもあったと思います。

何と言っても昭和の時代から 35 年にもなろうかという長い年月です。その間の思い出を書き始めるとセンターニュースの 10 ページでも足りません。いただいたのは 800 字ですから、すでにオーバーしています。

まことに月並みながら、〝お世話になりました〟とだけ申し上げて、〝もっと書きたい〟気持ちを抑えることにします。もちろん、センターの今後のさらなる発展を願いながら…。

熊大在職の思い出

センター特任教員　　田中　耕治

平成２１年３月に熊本県の公立中学校を定年退職し、熊本大学教育学部教育実践センター所属の特定事業教員（教員免許状更新講習）として５年間、熊本大学に勤務しました。その中で、心に残ったことを振り返ってみたいと思います。

1　教育学部学生のボランティア活動

ユアフレンズ、メイクフレンズにおける学生諸君のボランティア活動にはいつも感心させられました。子どもが好きで、精一杯準備し、精一杯考え、精一杯関わり、子どもの喜ぶ姿に喜びを見いだしている姿には感動しました。精一杯悩むことが大切であると思います。思うような結果にはならなくても、その行動こそに意味があると思います。

2　教育学部の先生方の専門性

教育学部の先生方は、教育現場の教員が求めている知識や情報、そして様々な教育問題に対する対応方法を持っておられることを改めて感じました。もっと、大学と県教育委員会が連携を深めるべきだと思いました。そして、大学の先生が、学生の養成だけでなく、現職の教員の研修にも携われるような組織や体制ができればいいなと思いました。

3　自分自身の研修

教育現場は忙しく、なかなか研修する機会はありませんでしたが、この５年間の中では、「学校経営と若手教員の指導」、「学級経営のあり方」、「子ども理解と問題行動への対応」など体系的に学ぶことができました。また、パソコンなどの操作方法を知ることができたことも収穫でした。

4　お礼

自分が卒業した大学で勤務することができて大変ラッキーでした。多くの人と出会うことができたし、学生諸君の若い息吹も感じることができたし、大学の雰囲気も知ることができました。教員をめざす学生には心からエールを送りたいと思います。

また、自分が県教育委員会や大学の連携について、少しだけではありますが携わることができたことは喜びでありました。

今後さらにこの連携の絆が強く太くなって、熊本県の教育がさらに向上していくことを願っています。

2013（平成 25）年度メイクフレンズ活動報告

メイクフレンズ船長　　藤山　茉優

私たちメイクフレンズは、文部科学省が推進しているフレンドシップ事業の一環として「子ども理解」を目的とし学生主体で活動を行っています。本年度は、中央公民館、五福公民館、託麻公民館、大江公民館の４つの公民館と提携させていただき大学外での体験活動を行ってきました。前年度の流れを引き継ぎ、年間を通して特定の子どもたちと共に活動の企画運営をするプランナー班、学生が主体となって活動を企画、運営する単発班・ホール班として活動を行いました。

私は昨年度に引き続き単発班に所属していましたが、毎回参加する子どもたちが違う（中にはリピーターの子もいますが）ということが、単発班の特徴であるような気がします。活動当日までに把握できることは、活動に参加予定の子どもの数と名前、学校、学年のみでそれ以外は当日子どもたちと会ってみないと分からないことばかりです。それゆえ企画段階での予想と対策が非常に重要になり数時間の活動ではありますが、企画には何倍もの時間を費やしつくりあげていきます。そ

して、活動を終えて班内で、そしてメイクフレンズ全体でその活動を振り返ることで、「子ども理解」の幅を広げ深めることが出来ると考えています。

今メイクフレンズには 70 人近い学生が所属しています。学生の価値観や考え方はもちろん個々で異なり全員が納得する活動をつくりあげていくことは、容易ではありません。しかし、様々な考え方や視点があるからこそ、個人だけの考えに留まることなくよりよい話し合いに、活動になっていくのだと思います。

最後に、私たち学生がこのような貴重な経験が出来ているのは公民館の先生方を始め吉田先生や田中先生など多くの方々からの支えがあるからです。周囲の方々への感謝を忘れることなくメイクフレンズの一員であることを誇りに来年度もさらなる発展・成長をとげていきたいと思います。

ユア・フレンド活動で得たもの

ユア・フレンド　　青木　望美

私は 2 年生の 9 月から活動を始め、今年で 3 年目になります。これまでに 1 つの中学校で、保健室に登校してくる生徒たちに接してきました。週に一回の活動ですが、本当にいろいろなことを考え、迷いながらもたくさんのことを学ばせてもらっています。また、このユア・フレンド活動は、私にとって自分自身を大きく成長させてくれるとても重要なものになっています。実際に保健室に登校してくる生徒と関わると、生徒の抱える問題は多種多様でした。家庭環境が複雑な生徒や人とのコミュニケーションが苦手な生徒、複雑な環境が生徒を取り囲んでいました。

私は、このユア・フレンドの活動に対して、はじめは、困っている子どものためになればとか、不登校の子どもと関わりたいなど自分の思いの側から考えて活動に取り組んでいました。実際にこの活動を経験してみて考えたのは、ユア・フレンド活動は私と子どもという人間同士が関わりあうことで何かしらの変化をお互いに生むということです。私たちが学校や家に足を運び、子どもたちに関わることで、子どもたちは何かを感じてくれると同時に、私たちにもきっと得るものがあると思います。だからユア・フレンド活動ではあまり焦らず、長期的に関わっていくという意識を持って、自分のありのままの姿で子どもと向き合うことが大事であるということをこの活動から強く感じました。

私は、ユア・フレンド活動から多くのことを学びました。確かに、自分一人で学校に行き、どのように生徒に接していけばいいのかという不安を覚えた時期もあります。しかし、その不安の中で色々なことを考え、学んだことは、私の人生の中でもとても大きな学びとなっています。毎回の活動内容や工夫点などを上手くこれからの自分の活動に盛り込む事で、自分自身を成長させ、より充実した活動に出来るのではないかと考えます。私らしいユア・フレンドを追求して、これからも活動に励んでいきたいです。

ユア・フレンドの活動で得たもの

ユアフレンド　　鬼下　優美

私は、ずっと１人の女の子とユア・フレンドの活動を続けています。ここでは名前を仮に詩織さんとします。

私が初めて詩織さんに出会った日、詩織さんは緊張のせいか、とても不安そうな表情をしていました。しかし、活動を重ねていくうちに詩織さんは、だんだん私に対して心を開き、自分からさまざまな話をしてくれるようになりました。

それから１年ほど経ち、詩織さんは少しずつ学校に登校できるようになり始めていました。しかし、詩織さんは、インターネットに没頭し、身近の者よりもインターネット上の友人と話をすることが楽であるという話を私にしてくれました。私は、どう対応したらよいか悩み、総合支援課の先生に相談し、「すぐに学校の先生方にお伝えした方がいい。」という助言をもらいました。そこで、すぐに学校の先生方に伝えました。先生方は早急に対策を練ってくださいました。それからしばらくして、詩織さんに学校の友達ができ、徐々にインターネットから離れていきました。

現在、詩織さんは中学３年生に進級し、毎日学校に通いはじめています。私は、時折、詩織さんが友人と楽しそうに話をしている姿をみて、とても嬉しく感じています。これからも詩織さんがたくさんの経験を積んで、毎日を楽しく過ごしてもらえたら良いなと思っています。

ここで、これまでの活動の中から学んだことを２点お伝えします。

１つ目は、保護者や学校の先生方と積極的に連携をとることの大切さです。何か問題が生じた時に１人で抱え込むことは何も解決策は見えてきません。自分ができることを一つずつやっていくことが大切であると感じました。

２つ目は、子ども一人ひとりをしっかりと理解し、向き合うことの大切さです。私は、詩織さんと多くの話をすることで、活動当初には知り得なかった詩織さんの思いを知ることができました。

この２つの学びは、私が教員になったときに、とても役に立つ学びです。詩織さんは、この他にもたくさんのことを私に教えてくれました。私は、さまざまなことを学ばせてくれた詩織さんにとても感謝しています。

ユア・フレンドの活動で得たもの

ユアフレンド　中村　謙二郎

３年間継続して１人の男の子と関わってきました。週１回の活動ですが、毎回の活動で学ぶことや考えることが多くあり、彼とのかかわりは自分自身を成長させてくれます。この男の子「Aくん」との関わりの中で、感じたことをお話します。

Aくんは話が大好きで思いやりのある優しい子です。毎回の活動も楽しく過ごすことができました。

そんな中、Aくんが癇癪を起こした日があります。布団に潜り、ただ泣き叫んでいました。声をかけても応答がありません。困惑しながら

も、活動終了まで布団の横にそっと寄り添いました。活動を終え、いつもは外までお見送りにきてくれるAくんの姿はありません。しかし次の活動で、「先週はごめんなさい。中村さんがいつもの時間まで居てくれて嬉しかったです。」とAくんに言われました。私はこの言葉に喜びを感じました。子どもがいつもと違う様子でも、いつもと同じように接することの大切さを学びました。

当初は家庭派遣でしたが、現在は学校派遣に変更となり、学校で活動を行っています。人を思いやることのできる優しいAくんの周りには、多くの友だちや後輩もできたようです。「『学校に復帰できたから、ユア･フレンドは終わり』ではなく、『今まで築き上げてきた関係性を大切にしたい。』今後も可能な限り活動を続けていただけるとAくんも喜びます。」と先生に言われました。「子どもたちのやりたいことを、一緒におもいっきり活動すること」が大切なことだと思います。その気もちを持って活動を続けることで、信頼関係を築くことができます。子どもたちのやりたいことはゲームや野球とは限りません。一人で静かにしたいときや話をしたくないこともあるはずです。そんな時も、子どもたちを受け入れて粘り強く活動することで、思いは伝わると思います。Aくんの言ってくれた「ぼくが 20 歳になったら中村さんと一緒にお酒を飲みたい」。その言葉が実現できるように、Aくんとの活動でより強い信頼関係が築けるよう楽しく活動を続けたいです。

センター日誌

平成２４年度

11 月 13 日　第 78 回運営委員会
11 月 22 日　公開講座・フォロー研修（東京）
12 月 8 日　熊本大学教育学部教員養成機能充実シンポジウム
12 月 9 日　更新講習（田中）
1 月 25 日　平成２４年度日本教育大学協会九州地区第３０回教育実践研究協議会
1 月 26 日　平成２４年度ユア・フレンド事業第 2 回意見交換会（教育学部）
2 月 16 日　第８２回国立大学教育実践研究関連センター協議会
3 月 4 日　フレンドシップ事業シンポジウム

平成２５年度

4 月 8 日　第 79 回運営委員会
4 月 13 日　ユア・フレンド事業説明会および登録証交付式（教育学部）
5 月 11 日ユア・フレンド事業研修会(教育学部)
5 月 14 日　市教委連携推進委員会
5 月 14 日　ユア・フレンド事業研修会補講（教育学部）
5 月 28 日　第 80 回運営委員会
6 月 1 日　免許状更新講習・八代（吉田）
6 月 11 日　第１回臨時運営委員会
6 月 22 日　4 年次教育実習事後指導～ 23 日まで（高原）
6 月 22 日　免許状更新講習・八代（中山・田中）
6 月 29 日　4 年次教育実習事後指導～ 24 日まで（吉田・中山・田中）
7 月 4 日　公開講座リーダーシップ・トレーニング（熊本会場）～ 5 日まで
7 月 16 日　熊本サイコドラマ研究会第 1 回心理劇ワークショップ
7 月 25 日　免許状更新講習・阿蘇（吉田）

7月29日　免許状更新講習・阿蘇（吉田）
7 月 30 日　免許状更新講習・阿蘇（高原）
8月1日　免許状更新講習・天草（中山）
8月3日　免許状更新講習・天草（吉田）
8月6日　免許状更新講習・人吉（高原）
8月9日　免許状更新講習・人吉（吉田）
8 月 10 日　免許状更新講習・天草（中山）
8 月 11 日　免許状更新講習・天草（中山）
8 月 22 日　公開講座リーダーシップ・トレーニング（東京会場）～23日まで
8月22日　合志市サマースクール（合志中）
（田中・三原・メイクフレンズ）
8月26日　合志市サマースクール（西合志中）
（田中・三原・メイクフレンズ）
8月27日　合志市サマースクール(西合志南中)
（田中・三原・メイクフレンズ）
9月6日　2年次教育実習（～20日まで）
9月7日心理劇ワークショップ(～8日まで)
9月14日　免許状更新講習（高原）
9月21日　免許状更新講習・玉名（中山）
9月22日　免許状更新講習・玉名（吉田）
9 月 28 日　ユア・フレンド事業第1回意見交換会（教育学部）
10月2日　第2回臨時運営委員会
10 月 4 日　公開講座リーダーシップ・トレーニング（熊本・フォロー研修）
10月6日　免許状更新講習（吉田）
10 月 8 日　熊本サイコドラマ研究会第 2 回心理劇ワークショップ
10月20日　免許状更新講習（中山）
10月28日　免許状更新講習（中山）
11月10日　免許状更新講習（中山）
11月12日　第81回運営委員会
11 月 27 日　公開講座リーダーシップ・トレーニング（東京・フォロー研修）
12月7日　熊本大学教育学部教員養成機能充実シンポジウム
1月24日平成２４年度日本教育大学協会九州地区第３０回教育実践研究協議会
1月25日　平成25年度ユア・フレンド事業第2回意見交換会（教育学部）

編集後記　本文で「お世話になりました」とご挨拶しましたので、余計なことは申し上げない方がいいでしょう。ただ、このページが最後の行まで収まるようにいたしましょう。▲センターも33年目を体験中です。いろんなところで老化現象が現れています。まずは表玄関が新装なって、皆さまをお迎えします。新顔のセンターにお見えください。（文責　吉田道雄）

熊本大学教育学部附属教育実践総合センターニュース
（題字 森山秀吉元教育学部教授）
No.38 2014.1.31
〒860-0081 熊本市中央区京町本丁5-12　Tel 096-325-3282　Fax 096-352-3468